

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
C-190	14-150	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名（原題／訳）		
Internalized stigma and sterile syringe use among people who inject drugs in New York City, 2010–2012. ニューヨーク市における内面スティグマと消毒済みの注射器の使用について		
執筆者		
Rivera AV, DeCuir J, Crawford ND, Amesty S, Lewis CF.		
掲載誌		
Drug and Alcohol Dependence. 2014 Nov 1;144:259-64. doi: 10.1016/j		
キーワード		PMID
スティグマ、薬物注入、HIV リスク行動、注射器		25307745
要 旨		
目的： 注射による薬物使用者におけるスティグマと健康・行動との関連の評価はほとんど行なわれていない。先行研究では、内面のスティグマが健康的な行動を抑制する報告がある。本研究の目的は、ニューヨーク市における薬物注入者における、内面のスティグマと社会疫学的な因子・薬物注入リスク因子との関連を評価することである。		
方法： 3つの薬局が薬物注入者のリクルートを行なった。リクルートされた注射器を使用する者はトレーニングを受け、3人までの仲間を見つけるよう教育された。参加者は注射行動と内面のスティグマの調査を受けた。HIV 陰性の参加者 132 名に対して、薬物注入に関連する内面スティグマを評価する解析が行なわれた。		
結果： ラテン系アメリカ人はより高い内面スティグマを持つ傾向がみられ、教育水準が上がるに従って低くなる傾向があった。内面スティグマが高い参加者は、シリンジ交換プログラムに参加しない傾向がみられた。		
結論： 内面スティグマの高い薬物注入者は消毒済みの注射器を用いようとする傾向がみられた。このことより、薬物注入者における内面スティグマに対する個人レベル、組織レベルの介入が必要と考えられる。内面スティグマの高い薬物使用者が消毒済み注射器のある場所を利用しない傾向がある原因については更なる調査が必要と考えられる。		